

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950480010		
法人名	医療法人 景雲海		
事業所名	グループホーム アゼリア		
所在地	山梨県甲州市勝沼町菱山中平4300		
自己評価作成日	平成28年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年9月16日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人一人が興味を持てる事や、能力を引き出すような事や、クラブ活動やレクリエーション活動として行っております。利用者の意見を聞き、遠足や外食等も楽しんでいます。また、地域交流を心がけ、イベントに参加したり地元のボランティアの方と一緒に楽しんでいます。特に春のよもぎまんじゅう作りや梅漬け、秋の干し柿作り当には利用者の経験や知恵を拝借し、毎年おいしい物ができています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、閑静で盆地の街並みが眺望出来る見晴らしの良い高台にあり、ブドウ畑に囲まれた自然豊かな環境の中にある。本館・新館の2ユニットで、介護老人保健施設とショートステイが併設されている。地域のボランティアの受け入れ体制が密であり、よもぎ饅頭作り、野菜作り、芋ほり、夏祭り、敬老会、クリスマス会等の行事で協力を得ている。これらの行事は、生活に根づいた行事であり、利用者の楽しみの機会となっている。地域の文化祭への作品の展覧や見学等もあり、利用者はいきいきと生活している。職員の研修体制は充実しており、研修参加後の発表も月2回実施し、職員間の共有も図れている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム アゼリア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設け、地域交流を大切に、積極的に活動している。	左記同様	理念は、玄関入口左側の壁に提示してあり常に職員が目に見ている。毎朝の朝礼や月1回の業務改善会議にて常に理念に基づいた見直しを行い皆で共有している。入居者は、近隣の方々との触れ合いの場を常に持ちつつもこやかに個性豊かに過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	警察署敷地内の花壇の手入れや、駅前の清掃作業に参加する事により、地元の人々との交流を深めている。	左記同様	入居者が、地域の組の行事・お茶会等に近隣の方達やボランティアと一緒に出掛け、奉仕作業も行っている。毎年障害者の文化祭や町内の文化祭に作品を出展し見学にも出かけている。絵手紙をはじめ多くのボランティアの訪問があり地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実際にはまだそのような機会がないのが現状である。	左記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割合で開催しており、実際取り組んだ内容をビデオで紹介し、今後の活動等について報告している。それに対して意見交換を行い、そこで得た情報をサービスの向上に活かしている。	左記同様	運営推進会議は、家族1~2名と利用者1~2名を含む総人数10名程で、偶数月の第3木曜日の午後開催している。家族や利用者から現状に即した意見が多く出て、改善に活かしている。今年度は、地域の方からの提案があり敬老会で演劇を披露して貰う事となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議を行っている事から、会議の場以外でも情報やアドバイスを頂き、市町村との連携を図っている。	左記同様	運営推進会議のメンバー構成の変更について、介護保険課に相談している。また、入居者の様子伺いの訪問もある。書類の申請・更新時に話し合うなどして、市との協力関係を築いている。以前は広報を市役所に取りに行ったが、今は郵送になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないことを学習し、理解している。玄関は日中センサーを設置し、自由に出入りできるようにしている。また居室においても昼夜を問わず鍵はかけず、自由に出入りできるようにする等し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	左記同様	法人内の身体拘束防止委員会は、月1回開催している。学習会や全体の研修会も毎月有り、年間研修の中に組み込まれている。スピーチロックについては、言葉の言い換え表を作成し、職員同士で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解したうえで、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解したうえで、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず、理解・納得して頂けるよう説明し同意を得ている。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム アゼリア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し苦情処理に関する概要を提示している。また利用者の意見も傾聴し不満等を受け入れ、ケアや運営に反映している。	左記同様	運営推進会議や家族面談(年2回)を行っているが、なかなか意見が出ない状況がある。利用者からは、食事や外出についての意見などがあり、可能な限り取り入れて支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	左記同様	毎月の業務改善会議、年1回の個別面談、その他日常的に、自由に意見が出ている。研修参加希望・受けたい研修等の要望を聞いている。行事計画はスタッフが計画している。また、職員の定着率が高く、定年後も働き続けられる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合いの場を持つたり、勉強会を定期的実施する中で、職員が向上心を持って働くことができるように努めている。	左記同様		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施。その後内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。	左記同様		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、勉強会や交流会を通じて活動し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	左記同様		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の把握。相談を受けた時は可能な限り対応できるように努めている。	左記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“共に生きる”できないことをサポートする”等の視点で毎日支援している。人生経験豊富な利用者様から多くの事を学んでいる。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム アゼリア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会の際は必ず家族と話をする時間を設け、よい雰 囲気を作っている。	左記同様		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や祭りに参加する等して、これまでの生 活が途切れてしまわないよう支援している。	左記同様	地域や組の行事(月見・花見・盆踊り・お彼岸・法事・暮 れの行事)に地域の人達が利用者を誘ってくれる。美容 院の送迎もある。よもぎ饅頭作りや団子作り・白菜漬け・ 焼き芋大会等生活に根付いた行事が行われ、今までの 生活が継続できる様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士で支えあうことができるように、さりげない 声かけや働きかけをしてサポートしている。	左記同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも本人や家族から相談を受けた場合は、必要 に応じて対応している。	左記同様		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人及び家族と話し合う機会を持つことにより、希望・ 意向の把握に努めている。	左記同様	随時、利用者の思いに寄り添った対応に努めている。意 思疎通が困難になった場合でも、表情やしぐさから本人 の思いをくみ取り利用者本位の支援に努めている。ま た、家族とのトラブルが起きない様に前もって話し合い、 利用者本人の要望に沿った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所時に家族と面談を行い情報収集し、本人の把握 に努めている。また、センター方式を活用している。	左記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等を活用して情報を共有し、利用者の 現状を把握するよう努めている。	左記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら、面会の際に家族の 意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中で職員が 意見を出しながら検討し、作成している。	左記同様	新入居時は、本人や家族の意向・要望を入れた暫定プ ラン(2週間~1か月)を立案し利用者の状況に応じて検 討している。見直しシート、業務の申し送りノートを参考 に、受け持ち担当者を含め3ヶ月に1回モニタリングし、 利用者の現状に合った計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、情報の共有を行い、ケアや 介護計画に反映している。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム アゼリア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせ、職員が随時対応している。	左記同様		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署及び警察署、その他民間の協力により、地域で行われているボランティア活動に参加させて頂いている。	左記同様		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関や、近隣の総合病院と連携を取っており、いつでも相談できるような体制が確保されている。またかかりつけ医とも常に連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。	左記同様	受診は、各自、以前からのかかりつけ医が継続しており、家族対応であるが、必要に応じて職員が対応することも有る。その際は、家族に状況報告書を渡し、受診後は医師の結果報告を受け取りファイルに閉じて記録し、職員間で共有している。訪問歯科や内科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の看護師に相談する等して、支援している。	左記同様		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は面会に行き、家族と病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて話し合いをしている。	左記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでそのような体制はとっていなかったが、現在重度化した場合や、終末期におけるケアを行っていく方向で検討中である。	左記同様	かかりつけ医が個々別々であり、看取りの体制づくりは難しい。重度化とはどの時点からかと、家族と面談し、同敷地内の老人保健施設の相談員と一緒に話し合い検討している。老人保健施設入所を含めて本人・家族が選択できる様に情報を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が急変時や早期発見に対する研修を、定期的に受けている。マニュアルを作成し、併設施設の看護師指導のもと、万が一事故が起きた場合には、それにのっとり対応できるように学習している。	左記同様		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で話し合っている。また、年2回地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。それ以外にも3ヶ月に1度自主的に防災訓練を行っている。	左記同様	年2回、消防署員による夜間を想定した組織全体の火災訓練を実施している。また、3ヶ月に1回、地震・火災を想定した訓練をマニュアルに沿って自主的に行っている。その様子をビデオ撮影し、避難・誘導の再確認をしている。防災用品・備蓄等も整えてある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも利用者は人生の先輩であるということを念頭に置き、言葉使い等に気を配り、その場の状況を見て言葉かけや対応をしている。	左記同様	利用者の気持ちを損ねないよう、言葉遣いや関わりに配慮したり、部屋に入る時はノックをする等のさりげない対応を心がけている。新人職員には、人権の尊重・接遇の基本指導をしている。個人記録は引き出しに保管してある。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム アゼリア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事が出来る雰囲気作りを心がけている。	左記同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせ、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に沿うよう支援している。	左記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	異動美容室を利用できるようにしている。また、外出時に家族となじみの理美容院に行くこともある。	左記同様		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も一緒に利用者と食事を摂り楽しく過ごしている。	左記同様	ユニット職員が、持ち回りで利用者に関心ながら献立を作成し、施設内で調理している。畑で取れた野菜を洗う、皮をむく、味噌汁を作る等個々の能力に合わせて利用者と一緒に調理している。2ヶ月に1回御当地メニューとして各県の名物を作るのが好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等一人一人把握し記録している。	左記同様		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ等行い、口腔ケアを促し、一人一人に合わせた方法で支援している。	左記同様		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	左記同様	排泄チェック表を作成し、利用者個々の排泄パターンを把握している。毎朝便秘体操をし、牛乳を飲むことでトイレでの排泄をスムーズにし、かつ自立を目指した支援を行っている。リハビリパンツやパット、ポータブルトイレ等を使用しており、常時オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い、牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して、便秘予防を図っている。	左記同様		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れるように配慮し、入浴を楽しめる事ができる支援をしている。	左記同様	本人の希望があればいつでも入浴は可能である。入浴嫌いの利用者には、家族の声掛け協力を得る事もある。入浴剤は滑り、転倒の危険性があるので今は使用していないが、柚子湯やバラの花の湯等の提供はある。好みのシャンプーを使用している利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム アゼリア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活が活動的になるよう働きかけ、安眠できるよう支援している。眠れないときは温かい飲み物を提供したり、話し相手になる等して眠れる環境を作っている。	左記同様		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用する薬の作用や副作用、用法等を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談できる体制も整えている。	左記同様		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族から、これまでの生活歴を聞き等し把握した上で、過去の経験を活かして得意な事に力を発揮する事ができるよう支援している。	左記同様		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、買い物やドライブに出かける機会を設けている。また、利用者の家族の意見も取り入れながら、毎月遠足等を計画し四季折々の季節を楽しみながら外出している。	左記同様	毎月遠足等を計画し、家族にも協力を呼び掛け、老人保健施設の車を借りて外出している。博物館や水族館の見学、お花見など季節感あふれるドライブを楽しんだり、車で5分位のコンビニで買い物を楽しむ等外出の機会を多く設けている。天候を見ながら近所を散歩したり、敷地内の庭園で作った野菜の収穫を楽しんでいる。	玄関を出た所の広い空間は、眺めも良く、周りには自然の草花もあり、外気浴に絶好の場所と思われる。利用者にとって外気に触れる事は、解放感を感じ、心の落ち着きが生まれると思われるので、毎日のおやつやレクリエーション等を利用して外気浴の機会が今以上に増える事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、場合によっては家族との話し合いの上で小銭を自己管理している利用者もいる。また、買い物の際には自分で支払いができるように財布を渡し支援している。	左記同様		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き、本人自ら電話をしている。また、携帯電話を所持している利用者もいる。	左記同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	左記同様	共有フロアは日当たりも良く、明るい雰囲気である。キッチン是对面式で自然な目配りが可能であり、利用者が自由に手強い家庭的な雰囲気が醸し出されている。フロアの一角にはソファや新聞・雑誌が置いてある。利用者の出展作品や写真、職員と一緒に作成した飾り物等も飾っており、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、外にはベンチが置いてあり、一人一人の時間を過ごしている。	左記同様		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂き、本人及び家族と相談しながら、配置場所も考慮している。	左記同様	ドアを開けた時に転倒しない様、部屋の入口に縦手すりを取り付けてある。ベッドと防災カーテン以外は持ち込み可能である。家族の写真や鉢植え・位牌・趣味を活かした装飾品等、本人と家族で決め、好みの居室になっている。携帯電話を使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に手すりを設置し、流し台や物干し等の高さも使いやすいように工夫している。	左記同様		